

府中かんきょう 市民の会

2004年 夏号
7月14日発行／季刊
発行人：大崎清見
連絡先：府中市住吉町2-30-31
3-508 TEL 042-368-2183

第4回

レンゲまつり

押立の田んぼで今年も開催

5月1日に実施された市内押立の田んぼでの第4回レンゲまつり。ゴールデンウィークと重なったり、レンゲの生育不良もあって参加者は、昨年とくらべてやや少な目でしたが、今年初登場の「花電車」も子どもたちの人気の的となり、たのしい集いとなりました。

今年から、府中市の助成も受けることができました。

市政50周年を記念する府中市内の50景のなかに、このレンゲ田の風景を加えるなど、将来にわたって子どもたちに残して行きたいものです。



来年に向けて、強い日差しを避ける工夫も必要で、また、まつり開催時期の前倒しなどが課題となりました。

レンゲの開花は条件により様々

レンゲまつりが実施された押立のレンゲは今年の場合、ほとんど開花せず、残念な結果となりました。今年で4回目のレンゲまつりでしたが、これほどレンゲが開花しなかったのははじめてのことでした。実行委員会では、市内の他のレンゲ田からコンテナに移植したレンゲを運び込んだり、たいへんな苦勞をしてレンゲと出会える会場作りをしました。



見事に咲きそろった南町4丁目のレンゲ畑

期待していたレンゲが十分育たなかった原因について、発芽時期と重なる昨年の秋から冬にかけての天候不順のせいではないかと推測しましたが、それでは、今年のレンゲはどれも「不作」だったということになります。当会は、なぜ、押立の田んぼのレンゲがうまく生育してくれなかったのかと疑問を持って、府中市内の他のレンゲ田の農家に対し、聞き取り調査をしました。

簡単な聞き取り調査ですので、正確なことは分かりませんが、この調査結果により、綺麗に咲いたレンゲ田とうまく行かなかったレンゲ田の相違が少し浮かび上がってきます。

市内の農家はレンゲを「緑肥」にすることを目的に主に市から種子を入手し、9月中旬頃に播種しているようです。

レンゲの生育が比較的順調でそろって開花したレンゲ田は、播種時期が9月中旬であるという点と播種前の田起こしを実施しなかったという2点で共通しています。これは3件が該当しています。逆に播種時期が1カ月遅い10月中旬で、播種前に田起こしをした田んぼでは、開花状況が悪いという結果となりました（押立の田んぼを含む2件が該当）。ところが9月中旬播種で播種前に田起こしをしなかった田んぼでも開花状況が悪い田んぼが3件あり、他の要因も考えられます。

しかし播種前の田起こしの実施は、レンゲを開花させるという目的のためには良くない結果を招くという点は、この調査で明白となり、会では来年のレンゲの開花を成功させるために、農家にたいして田起こしについて検討していただくようお願いすることにしました。

●今年のレンゲの開花状況と播種時期など

農家への聞き取り調査（2004/5）

所在地	種子入手先	開花状況	播種時期	稲刈り時期	播種前の田起こし
谷保下(国立)	市配布	悪い	9月20日	10月	実施せず
四谷4丁目	農協購入	良い	稲刈り前	(不詳)	実施せず
日新町3丁目	市配布	悪い	9月20日	10月	実施せず
分倍町3丁目	(不詳)	悪い	10月中旬	8月末	実施
南町1丁目	市配布	普通	9月彼岸頃	10月中旬	実施せず
南町6丁目	市配布	良い	9月彼岸頃	10月中旬	実施せず
南町4丁目	市配布	普通	9月23日	10月10日	実施せず
小柳町3丁目	市配布	悪い	9月彼岸頃	10月	実施せず
押立1丁目	市配布	悪い	10月20日、 11月中旬(2回目)	10月初旬	実施

グリーンフェスティバル2004

に参加して



グリーンフェスティバル2004が開かれた。多くの市民が詰めかけたが、初参加の当会のテントにも子どもたちが参加し、楽しいひとときをすごした（写真左と下）

**緑被率30%実現へ
緑を減らさず増やす努力を**

すずかけ公園に多くの市民

快晴に恵まれた4月29日「みどりの日」に、今年も『グリーンフェスティバル』が開催されました。たくさんのテントが並んだすずかけ公園では、草花・樹木の育て方の相談や寄せ植え作りの指導、巣箱・竹とんぼ作り、草笛の演奏、自然保護団体や緑の推進委員会の活動紹介コーナーなどが設けられ、多くの市民が訪れていました。

府中かんきょう市民の会も初参加

なかでも行列ができるほどだったのは、200円の草花・苗木の販売と腐葉土の無料配布で、最近のガーデニングの人气がうかがわれます。また竹とんぼや草笛にも子どもたちが群がり、巣箱作りでは親子で熱心にキットの組み立てに取り組んでいました。

府中かんきょう市民の会は『グリーンフェスティバル』には初めての参加で、ポスターや写真の展示、レンゲまつりのチラシ配布やレンゲの花の展示、牛乳パックのリサイクル工作を用意しました。

会場でフリスビーや、こま・サンバイザーを作ろうと呼びかけると、子どもたちが気軽に参加してくれました。ちょうど陽射しが強い日だったのでサンバイザーは好評で、親子でそれぞれのサンバイザーを作あげた後、思い思いの色や模様を描いて早速使われていました。年少の子どもたちも、こまやフリスビーに楽しそうに色塗りし、用意した牛乳パックが足りなくなるほどの好評でした。

「かんきょう市民の会」の活動を知らせる展示は、スペースが狭くて思うように出来ずに残念でしたが、来年は展示方法を工夫し、工作も材料をたくさん用意して準備しようと、参加した人たちと話し合いました。

最近、マンションや戸建住宅の建設が、また目立つようになりました。市の緑被率を調べると、平成10年は24.75パーセントで、現在はそれから6年も経っているので、もっと減少していると思われます。

『ほっとするね 緑の府中』の緑を育てる土地がコンクリートでどんどん覆われているのです。「緑の基本計画」では平成22年の緑被率の目標を29パーセントに、将来目標を30パーセントとうたっています。これを実現するためには、市民と行政が知恵を出し合いながら、今ある緑をこれ以上減らさない、そしてさらに増やしていく積極的な施策が求められています。（梅沢みどり）



落葉堆肥の利用実験中間報告

府中市が取り組んでいる落葉銀行は、植物廃材をゴミにしないでリサイクルする画期的な制度である。この制度の取り組みが始まって1年が経過し、銀行に預けられた落葉の分解も進み、市民に元金の払い戻しが始まった。

植物廃材の堆肥化は、近年、府中市のみならず多くの自治体で取り組みが行なわれているが、その実態は堆肥としての完熟度が低いため、土壌改良材やマルチング材として利用されることが多い。そこで「府中かんきょう市民の会」では、落葉銀行の堆肥の効用及び効果的な使い方を把握し、市民に堆肥利用の情報を提供できるよう、市の許可を受け、押立緑地で落葉堆肥を使った花の育成試験を行なっている。その中間結果をご報告する。

● 落ち葉堆肥試験の概要

落ち葉堆肥試験は、次の4つの対比区を設定し、花苗の生育量の調査を行っている。

- 1区: 無施肥区 ● 2区: 落ち葉堆肥マルチング区
- 3区: 落ち葉堆肥混入区 ● 4区: 肥料(ハイポネックス)施肥区

花苗は市より提供いただいたタネを育成し、5月8日に各実験区に36本づつ定植した。

花の種類: マリーゴールド・キンセンカ・ヒヤクニチソウ・ヒメヒマワリ

各実験区の花苗の生育量を1週間毎に計測した。

● 実験開始後4週間経過時点での状況

ー落ち葉堆肥は花の育成基盤材としてけっこういい線いってるかもー

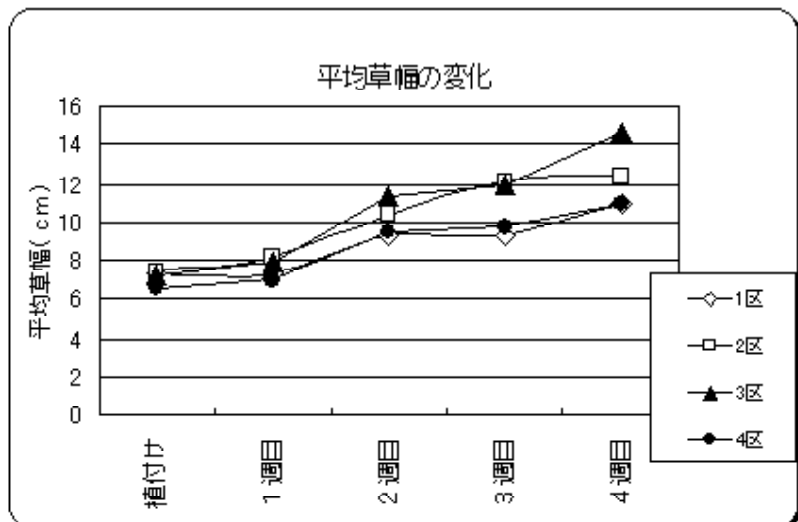
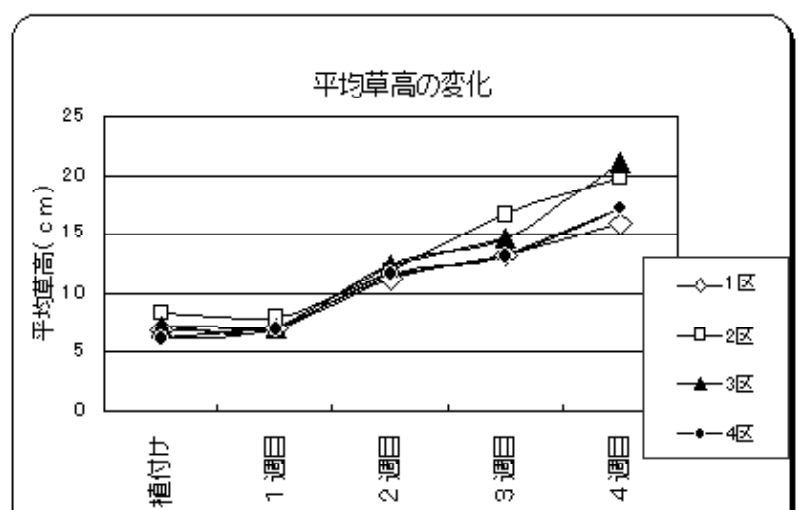
試験にあたっては、「落ち葉堆肥は土壌改良には効果があるが、肥料としては養分に乏しいため、堆肥無混入区(1区・4区)とはあまり生育状況に差は生じないのではないか」という仮説を持って行っている。

5月8日に花苗を各試験区に定植し、4週間に渡って草高と草幅を測定し、その平均値の変化を見たものが右グラフである。

これをみると、花苗の定植後2週間は各試験区の苗の生育量に顕著な差はみられなかったが、3週間目から明らかに2区と3区の成長が著しく良くなっている状況が伺える。

2区と3区は、落ち葉堆肥をマルチングおよび混入した実験区であるため、落ち葉堆肥の効果がみられる状況となっている。ただし、これが肥料として有効なのか、土壌物理性の改善が苗の生育に良い影響を与えているのかは、まだ判断できない状況である。

引き続き、観察を続けてゆき、何らかの結論を得たいと考えている。
(落窪一人)



押立緑地ではじめて
府中かんきょう市民の会
の落葉堆肥利用実験

環境分野における 市民と行政の新たな「協働」

去る3月20日、府中駅北第2庁舎で、府中市主催の法政大学田中充教授の講演がありました。この講演では、府中市の環境講座を修了した者が、府中市の各部署とうまく協働しながら事業などを推進する力になるために各地の事例を参考にしながら考えるヒントを得ます。市民・事業者・行政、とりわけ「市民と行政」が自立・対等・合意のもとで連携することが肝要で、時間をかけても実現しなければならない課題であると再認識させられました。



田中充教授

「協働」とは

環境行政分野は、60年代以前は「公害問題、地域開発問題に対する反対・抵抗運動」、70～80年代は「まちづくりや景観保全に関する対話・協議」、90年代以降は「地球環境、ライフスタイル等に関する提案・参画、自主的活動」になってきて、あらゆる人の生存の基盤に直結するようになりました。

これと同時に、次第に行政と市民が新たな「協働」を進めるようになってきました。

「協働」とは、市民と行政の間の自立、対等、支援を言い、①地域社会を形成する主体としての市民が「自立」し、②市民活動のサポート役としての行政が「支援」し、③行政と市民は「対等」の立場で補完しあって事業を行うことを言います。

全国の「協働」事例

「協働」の事例として、①柳川市の堀割浄化と再生に関して、市職員の発想と行動、市民の割堀浄化と維持管理への協力。②日野市の市民108名参画による環境計画の策定と進行管理への参加。③三島グランドワーク(市民団体)による湧水枯渇化に対する休耕田を利用した公園作りと湧水の保全。

④滋賀県野洲町の太陽光発電に対する住民出資とエコマナー「スマイル」での還元、その結果を地域産業の活性化に活用。⑤島田市における市民主導の環境イベントの実施、環境基本計画の進行管理を行う「環境ひろば」の活動…があげられました。

更に具体的に「とよなか市民会議」と「アジェンダ21桂川・相模川」の事例があげられましたが、ここでは詳しく説明された「とよなか市民会議」をとりあげます。同会議は市民・事業者・行政が、自立・対等・合意のもとで連携する「運営委員会」で、予算執行に係わる意思決定・連絡調整渉外を担当し、市長が会長で、市の環境企画課が事務局をつとめます。その下にいくつかの運営委員会から構成されるワーキンググループ会議があります。全体の活動や活動方針をここで決定します。

一方、「NPO法人豊中アジェンダ21推進会」が行政とは別に、有志構成員による執行機関として、率先行動の推進、環境啓発活動の推進、諸活動団体のコーディネートをしします。具体的には、ゴミ問題・交通問題・緑地保全などの「活動部会」があり、各活動のプロジェクトは、部会をまたがって活動しています。その他は表のように分担しています。(田中 正仁)

NPO法人豊中アジェンダ21推進会の位置づけと役割(田中充教授の資料抜粋)

	とよなか市民環境会議	NPO 法人豊中アジェンダ21 推進会
位置づけ	市長を長とする協議会	有志構成員による執行機関
事務局	環境企画課	独自事務局
活動の分野	- 啓蒙・啓発 - アジェンダ21の改訂 - 優良活動への顕彰	- 率先行動の推進 - 環境啓発活動の推進 - 諸活動団体のコーディネート
会員	- 有志参加 - 団体加入 - 会費なし	- 有志参加 - 個人加入、団体加入 - 会費あり
予算 および 収入源	- 啓蒙啓発に必要な会議費、出版費、表彰などの制作費 - 行政の通常予算	- 直接費、間接費、人件費などの事業活動に伴う費用 - 会費収入 - 行政からの助成、受託 - 環境活動助成団体からの補助金 - 収益事業
広報	- ニュースレターの発行 - 啓発冊子の発行など	- 月例活動案内 - 活動報告書の発行 - リーフレットの発行

講師の紹介

法政大学大学院教授(社会科学部研究科政策科学専攻)。東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。川崎市公害局(約27年間)。主な著書「環境自治体の創造」(共著/学陽書房、1992)、「環境影響評価法実務」(共著/信山社、2000)、「環境自治体作りの戦略」(共著/ぎょうせい、2002)など。

霞ヶ浦 アサザ基金の活動に学ぶ



飯島 博氏

NPO法人アサザ基金代表理事。
霞ヶ浦再生事業アサザプロジェクト
の企画運営をはじめ、環境計画、ビ
オトープの企画設計、環境教育プロ
グラムの企画運営などに携わり、霞
ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議
の事務局長も務める。 [http://
www.kasumigaura.net/asaza/](http://www.kasumigaura.net/asaza/)

4/13(火)に「NEC田んぼ作り」プロジェクトの一環で特別講演会「アサザプロジェクト～NPOと企業の協働が展く未来～」(講師:NPO法人「アサザ基金」代表理事 飯島博氏)がNEC府中で開催された。NEC社員40名、府中かんきょう市民ほか、市民25名が参加した。

アサザ基金の取り組みはこれからのNPOのあり方に大いに参考になるので紹介します。

水草アサザを小学生が育てる

アサザプロジェクトは、コンクリート護岸で破壊された湖岸植生帯を回復することから始まりました。浮葉植物アサザをはじめとした在来水草を小学生や市民が育て、植え戻す…これは高価な施設も多大な費用も必要としない、人の『手』で実施可能な公共事業であると同時に、人々が湖に直接触れて理解する重要な環境学習の機会となっています。例えば、約100校の小学校にビオトープ池を設置して在来の水草を育てることが、本来の湖の自然を体験理解したり、学区内から集まってくる生物を調べたりする環境教育の場となっているのです。

伝統技術、粗朶も復活

水草が根付くのを助けるため、NPOが流域の木材(粗朶)を使った消波施設を提案。これが国の公共事業として採用されました。アサザ基金が流域の林業関係者と国の調整役になることで、荒廃が進んでいる森林の管理と湖での自然再生とが同時に実施する仕組みができたのです。これにより、水源林の保全と林業の活性化、新たな雇用の創出などの効果が生まれています。

さらに木材(粗朶)を使った消波施設は魚礁となり、水産資源の保護育成にも役立っています。なお、この土木技術は日本の伝統技術を基にしており、古来、自然と共生してきた日本人の知恵を結集したものといえます。このほかにも、水源地ため池の復元、農家との連携による休耕田を活用した水質浄化、酒造会社と連携した水源地保全のための地酒づくり、地方自治体と連携した流入河川の環境改善などを行っています。



NECが協力し五月十五日、百五十人が参加して田植えが行われ、荒廃した谷津田が再生されました。

NPOが地域ネットを結ぶ

このように、本来つながっているはずの湖、川、水田、森林等に対して行政がばらばらに行っていた公共事業をNPOが相互に連携させることで、事業の効率化と新たな事業展開が実現しています。

アサザプロジェクトには、中心となる組織が存在しません。中心にあるのは協働の『場』であり、緩やかなネットワークを通じて各主体が自らの目的を達成することで、環境保全が内部目的化される仕組みになっています。各主体は、環境保全を義務や規制とみなすのではなく、自らの事業を活性化するものとして積極的に取り入れるようになっています。

このような協働の場のコーディネーターを行うのがNPOの役割です。広域ネットワークの構築には、地域にある既存のネットワークを生かしていくことが不可欠です。例えば、農林水産業のように地域の自然環境と産業を単位としたネットワークもあれば、小学校区のように地域コミュニティを単位としたネットワークもあります。アサザプロジェクトでは、流域の9割を越える170の小学校が参加して、国が行う霞ヶ浦での自然再生事業に必要な在来水草の育成や植え付け作業、お年寄りとともに行う昔の環境調査(自然の復元目標の設定)、流域全域での生物モニタリング(インターネットで全小学校が連携・流域管理システム)等の活動を、地域住民も参加する総合学習の一環として行っています。つまり、異なるネットワーク同士がうまく連携しているのです。また、この一連の事業は保全生態学の最先端の知見に支えられていると同時に研究のフィールドとして活用されています。

このように協働の場を共有することで、異なる組織による環境保全、教育・人材育成、科学研究、地域振興が一体となった活動が可能になるのです。

地域に即した循環型社会を構築

最後に、アサザプロジェクトの戦略についてまとめておきたいと思います。まず、これまでの行政主導による事業の進め方とはまったく異なります。地域に元々あった産業や教育といった広がりをもつ社会システムに環境保全機能を組み込むことで、水循環や生態系の物質循環を意識した人やモノや金の動きを作り出し、地域に則した循環型社会を構築していくことで、湖と流域全体を対象とした事業を展開できています。また、中心を持った組織ではなく、協働の場(アサザプロジェクト)をもった緩やかなネットワークを構築していることも特長です。これにより、ネットワークに参加した各組織がそれぞれ主目的を達成することが、同時に他者にとってもプラスとなり、環境の保全と地域振興の両立が持続的に可能となるのです。

(向達荘吉)

「身近な水環境の全国一斉調査」

府中から当会が参加

汚染度を測定する



「身近な水環境の全国一斉調査」が平成16年6月6日(日)、全国各地で開催されました。「府中かんきょう市民の会」もこの調査に加わることを決め、同日、多摩川班(熊井、原、竹田、大草)と、市内の用水・湧水を調査する用水・湧水班(進藤・五十嵐)も編成し、それぞれの地点で調査しました。

汚れひどい多摩川／多摩川班

午前10時。多摩川担当班は稲城大橋の橋脚下に集合。生憎の梅雨入りの時期で、早朝は曇りだったのが午前8時過ぎには、ポツポツと雨が降り始め、10時には傘なしではとても歩けない状態となった。

IT時代、調査定点の地図情報により調査地点の北緯、東経が即座に判明する。

多摩川に関しては稲城大橋付近、東京電力府中営業所の鉄塔南と大丸堰の3地点を選択し、入念な準備をした。にも拘らず雨だ。熊井会員がスモールバケツを持参して、持ち手に麻縄を結び採水し、水温を測定。視線は90度と皆で凝視し、パックンの共洗い3回。パックテストの空気を追い出して1.5mlの試すいをすべて飲み込ませ、色の変化を見守る。みるみるライトブルーへ。ウァー、汚いんだ。

傘をさして、次の調査地点へ。東京電力府中営業所の鉄塔南。マジックハンドがあったら便利だったが…。パックテストの結果にばらつきが見られる。

最後は大丸堰での調査。時は11時50分。気温も水温も下がっている。雨の中、傘をさしての気温、水温とCODの調査でした。意外に簡単に、正確に調査は終わった。

多摩川の調査結果

大丸堰	水温21.8度	COD 6mg/l
東電鉄塔南	水温22度	COD 6mg/l
稲城大橋下	水温24度	COD 8mg/l

(大草郁子)

清澄な西府湧水を維持したい／用水・湧水班

最初の調査地、西府崖線湧水地の周囲は緑多く静かで、気持ちがやすらぐ環境である。崖線からの湧水量は、雨の関係かいつもより多い。

調査結果 水温18℃、CODは3回測定結果0mg/lであった。

CODとは化学的酸素消費量のことで、水質汚濁の程度を示すもので、数字が小さい程きれいな水と云う事になる。西府湧水は清澄な水で当然と云えば当然の結果と思う。今後もこの状態を維持してゆきたい。

次に府中用水に行く。

国立市との境にある大山橋上流側は都道橋との間にあり、コンクリートに囲まれたスポットである。用水路の幅は3m程と広いが、周囲は何となく雑然とした感じである。

調査結果 水温23℃、CODは3回測定結果4mg/lであった。



用水の測定。サンプルを採取する

続いて西府用水。

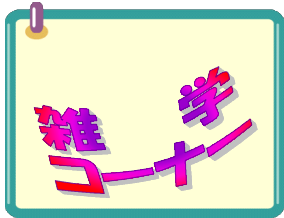
日新小学校南側(四谷緑地東)で、用水路の両端は昔からと思える土盛りで川幅は1m程である。水量は多く、いきおいよく流れており、水深は50cm以上ある。水の濁りは少ないが、小さなごみや草の葉など多く見られた。用水周辺は、昔の田園風景が残されており、懐かしく感じられた。

調査結果 水温22℃、CODは3回測定結果8mg/lであった。

主催者側は、この活動を通して水環境調査グループのネットワーク化が図られ水環境の保全と管理に役立つ成果が得られることが期待されると語りましたが、今後の継続調査に府中かんきょう市民の会としても積極的に協力してゆきたいものです。(五十嵐四郎)



多摩川の水質測定ポイント、大丸堰付近。



ふちゅう環境家計簿のすすめ

こんなことから エコライフ

はじめに

平成16年3月21日発行の府中市広報に「市の地球温暖化防止の取組み、温室効果ガスの排出量を5.8%削減」との記事があり、その中で二酸化炭素の量を算出できる「ふちゅう環境家計簿」が市役所環境保全課で配布されているとの事で、この記事の趣旨背景につき同課を訪問した。

府中市の温室効果ガスの排出量の測定は、数年まえから「府中市職員エコ・アクションプラン」を策定するに伴い、その取組みの一環として実施しているものである。

記事の内容から平成11年度では10,076.6トンであったものが、平成14年度では9,491.3トンに減少し、その効果はマイナス5.8%であったと報告されている。排出量は二酸化炭素、メタン、一酸化窒素、ハイドロフルオロカーボンの4物質について算出し、すべて二酸化炭素の重さに換算されている。(広報より)

ふちゅう環境家計簿のなりたち

府中市役所としては、このような運動を府中市民全員に関心を持ってもらいたいとの意向から、今回の「ふちゅう環境家計簿」のすすめとなったものである。

府中市では環境問題を根本から考える為、数年前から市民ボランティアによる「環境基本計画素案検討会」を設置、平成15年2月に「府中環境基本計画」が策定され、これに基づき「府中環境行動指針」が発表された。

この指針には6項目の基本方針と10項目の重点施策があり、「ふちゅう環境家計簿」は基本方針の第4項目の「資源の循環するまちをめざして」に対する重点施策第6項目の「自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めます」のなかで、市民の環境保全行動に掲げられているものである。

ふちゅう環境家計簿の記入について

ふちゅう環境家計簿は「家庭で省エネに挑戦」というタイトルがつけられ、それに対する実施項目は12項目(表)挙げられている。この中で特に電気使用量、ガス使用量、水道使用量をピックアップし、毎月の料金をそれぞれ定められた係数で割ればCO2排出量が算出できる仕組みになっている。

例を挙げると、電気使用料金が10,000円とした場合、23円で割り立方米をだし、それに0.36をかけると156.5(kg CO2)と算出できる。

冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定しましょう
冬場は冷蔵庫 ^{れいぞうこ} の設定温度を弱くしましょう
電気製品を使っていない時は、主電源を切る、さらに長時間使わない時はプラグを抜くなどして、待機電力 ^{たいきでんりょく} を減らしましょう
電気カーペットの設定温度は低めにしましょう
食器を洗うときは、低温でガス給湯器 ^{きゅうとうき} を使用しましょう
ガスコンロの炎が、なべ底からはみ出さないように調節しましょう
電気ポットを長時間使用しないときは、プラグを抜きましょう
入浴は間隔をあけず、なるべく追い炊きしないようにしましょう
シャワーの出っぱなしをやめましょう
お風呂の残り湯を洗濯 ^{せんたく} に使いまわしましょう
アイドリング ^{きゅうはっしん} をストップしましょう
車の急発進 ^{きゅうかそく} 、急加速はやめましょう

「ふちゅう環境家計簿」リーフレットより

従って1,000円の節約は15,6(kgCO2)の減少となる。ガスの場合は10,000円を140.6円で割り2.1を掛けて149.3と算出できる。水道の場合は10,000円を184.0円で割り0.58を掛けると31.5と算出する。

おわりに

地球温暖化は二酸化窒素やメタンなど温室効果を有するガスが大気中に排出されることによって地上の温度が上昇することである。これは人の活動によって起こることであり、地球温暖化の影響は海面の上昇、食料危機、生態系、健康などの広範の分野に涉って様々な悪影響が及ぶと予想されている。

数値を毎月環境家計簿に記入し、眼からCO2の動向を認識することにより、更に日常生活の中で省エネへの関心を高めるキッカケとなると思う。

(高橋 和夫)

府中市内の環境問題と取り組んでいます

府中かんきょう
市民の会



- 市内各所のウォッチングで環境チェック
- 「レンゲまつり」など環境復元活動も
- 先進の取り組みを見学／講座開催など随時
- 市政への提案活動…市環境基本計画など

例会：毎月第2水曜、18時から「グリーンプラザ」7Fで

会費：年1500円／代表：大崎清見

連絡先：府中市住吉町2-30-31 3-508

